令和８年度

全国学力・学習状況調査　洞爺湖町内の状況及び今後の改善方策

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果をお知らせいたします。調査は、全国の小学６年生と中学３年生を対象に行われました。洞爺湖町では、小学校３校（44名）、中学校２校（31名）の全５校が参加し、国語、算数・数学、英語の学力調査と生活・学習習慣に関する児童・生徒質問調査、学習指導に関する学校質問紙調査を行いました。学力調査の結果（平均正答率）は下記の表のとおりです。また、レーダーチャート（円形のグラフ）で学力の概要、児童・生徒質問紙調査の特徴的内容、さらに当町の学力向上対策の概要もお伝えいたします。

○ 教科に関する調査の状況

【各教科の平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

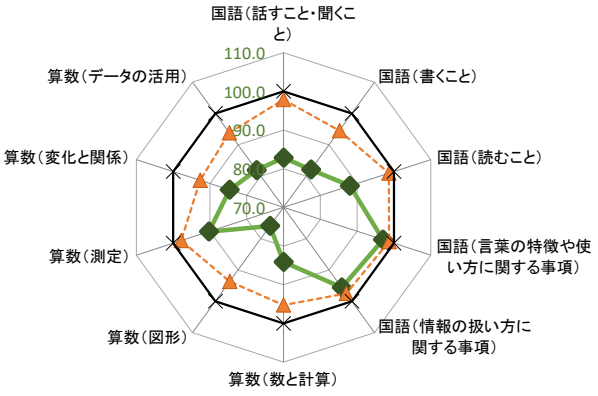
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【対象児童・生徒数】

小学校　3校　44名　　中学校　2校　31名

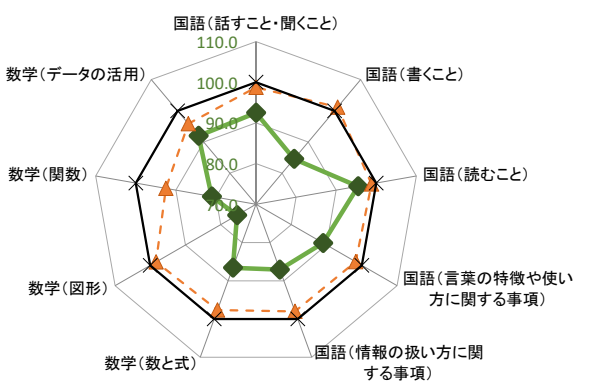
		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
令和８年度	洞爺湖町	55	48	57	48	449
	北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	489
	全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499
		国語	算数	国語	数学	
令和７年度	洞爺湖町	63.0	45.0	48.0	33.0	
	北海道（公立）	65.0	55.0	54.0	47.0	
	全国（公立）	67.0	58.0	54.3	48.3	

小学校



小学校の国語において、「言葉の特徴や使い方に関する」事項と「情報の扱い方に関する」事項、については、全国及び全道と同等の正答率である。また小学校の算数においては、選択式の問題では正しい解答を導くことができている。

中学校



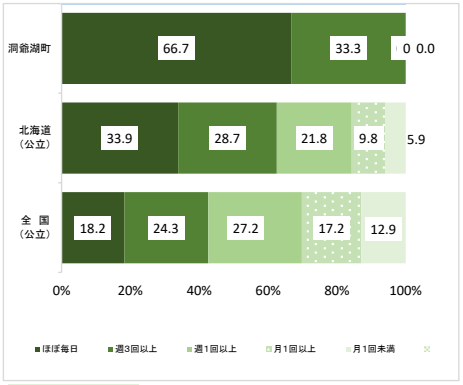
中学校の国語において、「読むこと」の領域と「話すこと・聞くこと」の領域において全国及び全道と同等の正答率である。また、中学校の数学においては、「データの活用」の領域において、全道と同等の正答率であった

○ 質問紙調査の状況

小学校

＜学校質問＞

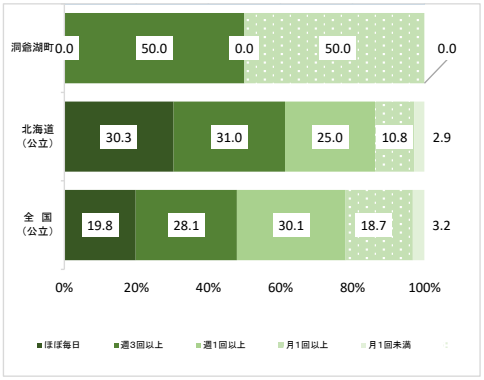
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

＜学校質問＞

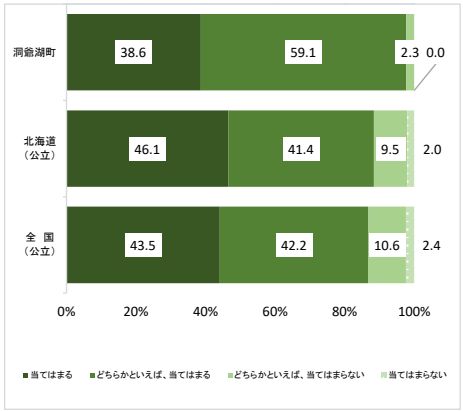
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

＜児童生徒質問＞

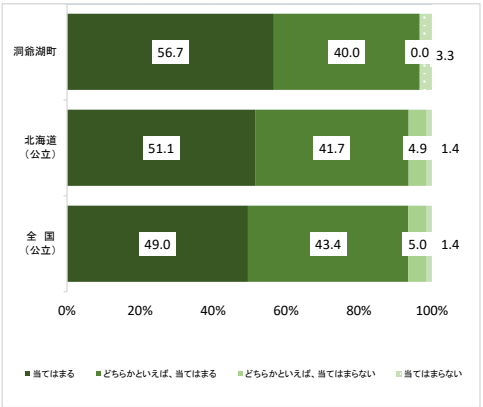
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校

＜児童生徒質問＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



小学校

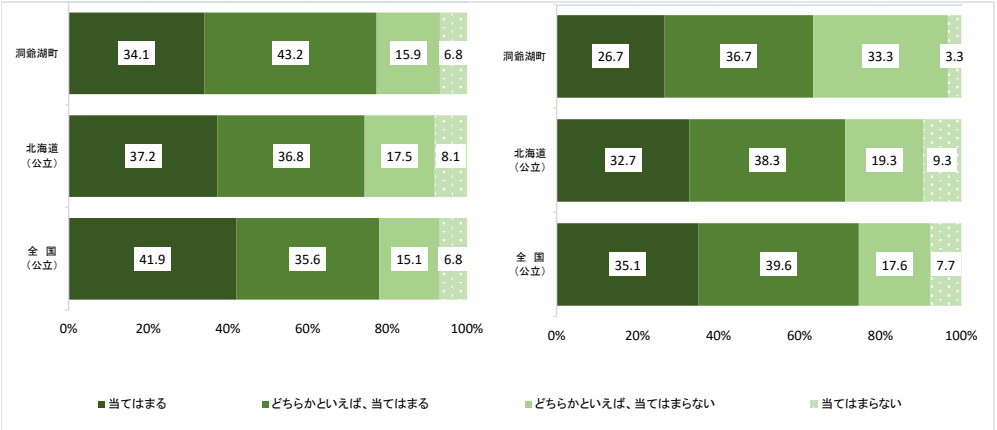
＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりま

中学校

＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



○ 調査結果の分析

教科の調査、学校質問紙調査及び児童生徒質問紙から伺われる本町の児童生徒の状況について、成果と課題、今後の学力向上の方策の代表的な事項について、お示ししております。

【成果としてとらえていること】

◎ 授業改善におけるICTの有効活用により、児童生徒同士の意見や考えを交流できる幅が広がったことにより、国語科における「考えの根拠を明確にすること」や「情報の関連付け」等【情報の取扱い】に関する調査結果について、小学校6年生で全国と同等の結果となったと考えられる。

◎ 授業改善の過程で、児童生徒がお互いの考えを共有し合う協働的な学びを行ったこと、加えて課題解決の過程を児童生徒に委ねる主体的な学びを推進することにより、「互いの考えを尊重しながら課題解決に向かう姿勢」が、全国の数値を上回る結果となったと考えられる。

【課題としてとらえていること】

▲ 「算数数学が良く分かる」と回答した児童生徒が全国と同等であるが、一方で「算数数学が好き」と回答する児童生徒の割合が全国を大きく下回っている。「良く分かる」との回答と児童生徒一人一人の学力の定着が乖離している一つの要因としてとらえている。

【今後の改善方策】

★ 各教科において児童生徒の「好き」や「得意」、「わかる」を育む授業改善を進めることで、児童生徒が自らの学びを構築し、自らの学びを深める実践力を育む必要がある。

★ 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図ることにより、児童生徒一人一人の資質・能力の定着を図る組織体制と児童生徒が主体的に学びに向かう授業改善を含めた環境づくりを行う。

★ 小中連携、小中一貫教育の推進による小中教員間の交流を活性化し、教科指導の専門性を高める研修の充実を図る。